

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月6日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2012

課題番号：21720224

研究課題名（和文）東アジア海域世界における南蛮貿易の構造と関係都市社会の発展

研究課題名（英文）An Analysis on the Structure of Portuguese Japan-Macao Trade and the Developments of Two Port Cities from the Perspective of East Asian Maritime World

研究代表者 岡 美穂子（OKA MIHOKO）

東京大学・史料編纂所・助教

研究者番号：30361653

研究成果の概要（和文）：本研究は、経済のグローバル化の先駆けである16～17世紀のポルトガル人のアジア交易を、ポルトガル語、スペイン語、イタリア語などの諸一次史料をもとに、具体的に再構築することにある。その主な考察対象は、商品、人の移動、関係する都市の社会史、そして商人とともに渡来する宣教師たちによっておこなわれた布教活動である。また日本＝マカオ間でおこなわれた取引に着目しつつも、比較的視点でアユタヤにおけるポルトガル人の活動などを考察し、日本が同時代の世界史において、どのような存在であったかも明らかにする。

研究成果の概要（英文）：This study aims to re-construct a specific figure of Portuguese Asian trade by making use of primary sources; hand writing manuscripts in Portuguese, Spanish, Italian languages etc. based on an idea that the Portuguese commercial activity created a part of global economic network connecting the world at that period. The topics to be analyzed here are the distribution of commodities, human sources, social history of cities involved in the trade, and missionary' work coming together with European merchants. Focusing on the trade between Japan and Macao especially, I tried to make a comparison with the trades in other regions like Ayutthaya in Siam in order to figure out the international environment of Japan at that period.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	264,587	79,376	343,963
2012年度	735,413	220,623	956,036
年度			
総計	3,200,000	959,999	4,159,999

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：南蛮貿易、マカオ、長崎、アユタヤ、イエズス会、キリシタン

1. 研究開始当初の背景

南蛮貿易に関する先行研究の大半は戦前に著されたものがほとんどである。代表的なものとして国内では岡本良知『十六世紀日欧交通史の研究』、幸田成友『日欧通交史』が

ある。岡本氏の著作ではポルトガル人が1492年にアフリカ大陸最南端の希望峰を回り、インド洋を経て、中国に至り、日本との交易を開始するまでの過程と、16世紀後半、彼らが日本に来航して、九州各地でおこなった交易

について、多彩な欧文刊行史料の分析により、網羅的な叙述がなされる。解読に労を要する欧文史料が日本語に翻訳され、我が国の研究者に紹介された点で、岡本氏の著作がその後の16世紀の東アジア海域の諸勢力の活動に関する研究に与えた影響は大きい。その後の同分野に関する研究は、主に岡本氏によって紹介された史料や文献によって発展し、未だそれを超える優れた研究は生み出されていない。欧文文献の邦訳という点では、岩波書店の大航海時代叢書や『イエズス会日本書翰集』の翻訳は今日において、文献史料の乏しい16世紀のアジアの政治・経済・文化史等の研究に貴重な情報源を与え続けている。先述の岡本氏の研究が、主に刊行された欧文の旅行記や史料集に基づくのに対し、未刊行のイエズス会等の宣教師らが東アジアで布教するに当たり残した記録、すなわちマニスクリプトと呼ばれる手書き文書の研究を中心に、南蛮貿易をはじめとする16世紀～17世紀の東アジアの経済状況の解明に着手した高瀬弘一郎氏の一連の研究が、他者の追従を許さないものである。しかしながら高瀬氏の関心は、主にイエズス会の日本布教の経済的側面を明らかにすることにあり、南蛮貿易を構造的に明らかにしようとするものではない。

ほかにも同分野に関し、重厚な先行研究があるとはいえ、先学による分析から洩れている重要史料も少なくない。これは先学の調査研究が不十分ということの意味するのではない。日本や中国を含む東アジア海域に関する16世紀から17世紀にかけての欧文資料は手書きのマニスクリプト、刊行史料等あわせて、一人の人間の一生では到底攫い尽くすことのできないものである。それらの文献のうちまとまったものはすでに邦訳のあるものが多いが、マニスクリプトによる情報の公開には、翻刻・翻訳の二つの手順を踏まねばならず、未だ残された量は無尽蔵といっても過言ではない。本研究では海外の文書館に眠るこれらの本邦未紹介史料の翻刻・翻訳とその紹介が最重要作業である。

同時代の貿易を構造的に分析した好著として、岩生成一氏の『朱印船貿易史の研究』が挙げられる。同書では、朱印船の取引高、積載量、船体構造、関係商人、寄港地等の詳細が明らかにされる。主な情報は朱印船の同時代の競合相手であったオランダ東インド会社関係史料によるものが多い。本研究は南蛮貿易を構造的に解明しようとする点で、同著をモデルとして、各要素を分析するところをこらけた。

2. 研究の目的

本研究は、欧文文献を主に用いながらも、ヨーロッパ中心主義史観にとらわれることな

く、東アジア海域世界における貿易構造の具体像に迫ることを目的とした。

(1) 南蛮貿易の具体像を明らかにする。
この貿易で取引された商品と取引に従事する商人たちの具体像を明らかにする。商品に関しては、拙稿「16世紀末南蛮貿易輸出入品細目について—セビーリャ・インド文書館所蔵史料の分析から—」で明らかになった南蛮貿易の商品を、その産地における生産状況や価格等を中心に分析を進める。主要な考察対象となる商品は胡椒(中国)、金(中国)、銀(日本、新大陸)生糸(中国)、反物(中国)、綿糸(中国)、綿織物(中国)、生薬(中国、東南アジア)、鉱物(中国、東南アジア)、香料(東南アジア)等である。

(2) マカオと長崎の社会の変遷を探る。

中国産商品を日本や東南アジアの港町へと運び、また明・清朝が必要とする商品をもたらすことで成長したマカオは、広東システムが開かれるまで、いわば中国の唯一の正式に開かれた対外貿易港であり続けた。広東が外国人に対して開かれたのちも、市場が形成される期間以外、イギリス人のような外国人はマカオへの居住を強いられた。このような環境の中で、混血の進んだポルトガル系マカオ人たちはイギリスやオランダの東インド会社社員として、現地と外国人の仲介的存在を担った。

長崎の港町としての歴史の変遷については豊富な研究蓄積があるが、日本と交易をおこなった時代のマカオ、その後のマカオについて、日本ではほとんど知られておらず、日本の「開国」に果たしたマカオの役割も無視できないものがあるだけに、マカオの港町としての社会的変遷を追うことは、日本史研究にも意味があると考えた。

(3) キリシタン史を社会史としてとらえる。

キリシタン史研究は、外交、貿易、文化など様々な点からの分析があるが、その研究状況は、今日ではあまりに細分化しているといえる。それでいて、日本社会とキリシタンの関係性についてはいまだ不明な点も多い。これはキリシタン史そのものが、受容史というより布教史の観点から主に研究されてきたためであり、国内政権とのかかわりについても、外交からの視点がかたがたで、国内の受容状況を視野に入れて考察したものはほとんどない。本研究では長崎県や熊本県でのフィールドワークをもとに、キリシタン信仰の本質や、それらが形成される諸要因について明らかにし、近世社会とキリシタンの関係について、思想的制約を可能なかぎり排除して、南蛮貿易と密接にかかわり、長崎という都市の特性を左右したキリシタン史の諸問題に取り組む道筋を見出す。

3. 研究の方法

本研究は、基本的にポルトガル語・スペイン語・イタリア語等で記される欧文マニユスクリプトの新たな開拓と分析をもとにおこなわれる。

主な調査・蒐集対象とした文書館は次のとおりである。

(1) ポルトガル

トルレ・ド・トンボ文書館、アジュダ図書館、エヴォラ文書館、海外領土史料館、リスボン国立図書館、海事博物館、外務省文庫

(2) インド

ゴア歴史文書館

(3) スペイン

マドリッド国立文書館、マドリッド国立図書館、王立史学士院図書館、インディアス文書館

(4) イタリア

イエズス会文書館、ジェノヴァ州立図書館、ローマ中央図書館

(5) メキシコ

メキシコ国立文書館

蒐集した史料は膨大な量に及ぶため、ポルトガル人共同研究者のルシオ・デ・ソウザ氏から調査・翻刻・解読作業等で助力を得た。

4. 研究成果

文書蒐集と解読による主な研究成果は次のとおりである。

(1) ゴア歴史文書館「モンズーン文書」日本関係文書の蒐集。

同コレクションは、16世紀から20世紀までのポルトガル領インドの行政文書であり、日本に関しても多くの情報が含まれるが、複雑な政治状況と情報不足から、先学の研究による実見調査はなされてこなかった。ポルトガル海外領土史料館におけるマイクロファイッシュ分析を経て、ゴアで文書を実見する必要性を感じたため、ゴアに実際に赴き、文書館調査をおこなった。これにより日本関係文書1500葉分をマイクロフィルムにて収集した。但し、これは17世紀前半の日本関係部分に限るため、今後の調査によってより幅広い年代の日本＝マカオ関係文書の調査と蒐集を将来的に計画している。

これらの新規蒐集文書を用いて、主に17世紀初頭の長崎貿易における、銀の投資に関する情報を抽出し、これまですでに取り組んできたマカオ＝長崎間貿易における銀の冒險貸借について、新たな分析を加えた。これらの研究はフランス高等科学研究所(CNRS)の研究者らから注目を集め、今後の日仏共同研究課題として取り組まれることとなった。

(2) ポルトガル国立文書館明清代漢籍史料調査。

本研究の主題は16世紀～17世紀のマカオ＝日本間交易であるが、マカオの都市社会史の解明の重要性を認識し、「寛永鎖国」以後のマカオ社会と交易の状況を明らかにするべく、他の研究者らとの共同研究により、明清代澳門関係漢籍史料の分析に着手した。これにより、18世紀半ばまで清朝の唯一の対外貿易港で、外国人居留地であったマカオが、どのようにその存在を保ち続けたかに光が当てられるようになった。その成果は論文「ポルトガル領事のみた幕末長崎一大洲藩船いろは丸のポルトガル語売買契約書を手がかりに」で発表されている。

そのほかこれらの史料調査にもとづく研究報告、招待講演を数々の場所でおこなった。これまでの東アジアの国際関係の研究では、マカオは、広州や香港の陰に隠れ、その重要性が十分に吟味されてこなかったが、研究代表者によるここ数年来の問題提起により、世界史叢書等でもマカオが重要課題として論文のテーマに選択されるようになった。

(3) 人身売買史料の発見

これまで日本・アジア関係史料の文書館としてはほとんど認識されていなかったメキシコ国立文書館において、国外共同研究者であるルシオ・デ・ソウザ氏が、多くのフィリピン関係史料等の中から、日本・中国等に関する重要な史料を発見した。なかでもメキシコに渡ったポルトガル人商人とその家族の奴隷であった日本人の存在が明らかになり、16世紀中に日本人が新大陸に太平洋を横断して渡航していた事例として、新聞記事(発表は読売新聞2013年5月13日、22日)等に取り上げられ、大きな話題となった。英字新聞(The Japan News)でも大きく取り上げられたため、同記事が海外諸国の新聞のインターネット版に転写され、反響を呼んだ。なお、これらの史料の分析をもとに、今後複数の書籍(ソウザ氏と共著)が公刊される予定である。

なお、本研究の全体的な成果は『商人と宣教師－南蛮貿易の世界－』(東京大学出版会、2010)にまとめられた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計13件)

以下すべて岡 美穂子による単著

(1) 「外海地方のキリシタン絵画にみる托鉢

修道会の痕跡と「贖宥」『長崎県内の多様な集落が形成する文化的景観保存調査報告書論考編』長崎県文化財調査報告書第 210 集, 2013 年 3 月, pp. 137-148

(2) 「フランシスコ・カブラルの長崎発書簡 (1572 年 9 月 23 日付) にみる岐阜」『岐阜県立歴史博物館紀要』21 号, 2013 年 3 月, pp. 35-42

(3) 「ポルトガル船のアジア貿易にみる金属取引」『歴史と地理 日本史の研究』239 号, 2012 年 12 月, pp. 33-41

(4) 「贖宥への祈り—マリア十五玄義と「オラショ」の功力」『文学』13-5 号, 岩波書店, 2012 年 9 月, pp. 31-44

(5) 「大航海時代のポルトガル沈没船にみる東洋陶磁」『貿易陶磁研究』32 号, 2012 年 9 月, pp. 1-9

(6) 「16 世紀ポルトガル人のアユタヤ=マカオ=九州間交易」平尾良光編『鉛同位体比を用いた東アジア世界における金属の流通に関する歴史的研究』別府大学文学部, 2011 年 3 月, pp. 55-65

(7) 「ポルトガル領事のみた幕末長崎」『日本歴史』756 号, 2011 年 6 月, pp. 87-97

(8) “Trade Consigned to Portuguese in Ayutthaya: From the Reign of King Narai to the Reign of King Thaisa”, *Transactions of the International Conference of Eastern Studies*, Vol.56 2011, pp. 25-41

(9) “The Bottomry Contracts/Respondencia in XVII Century Nagasaki Macau Trade”, Costa, J.P. (ed.), *Estado da India e os Desafios Europeus*, CHAM, 2010, pp. 119-138

(10) “Os Jesuítas e o Comércio entre Macau e o Japão”, *Revista Lusofona de Ciência das Religiões* No.13/14, Edição Universitaria Lusofonas, 2009, pp. 359-365

(11) “Prehistory of the Commerce between Nagasaki and Macau—an analysis of the Portuguese settlement in Zhejiang in the 1540s”, *The Proceedings of the First Congress of the World Historians*, 2009, pp. 1-14.

(12) “The Network of Merchants of Nagasaki and Macao during the 17th century—an examination of the investment of silver”, *Canton and Nagasaki Compared 1730-1830, Dutch, Chinese, Japanese Relations*, Intercontinenta, No. 26, Leiden, 2009, pp. 261-272.

(13) 「寧波海上の仏狼機集団与馬六甲連絡組織—南蛮貿易前史—」, 郭万平、張捷編『舟山普陀与東亜海域文化交流』浙江大学出版社, 2009 年, pp. 59-76.

[学会発表] (計 21 件)

(1) 招待講演「一六世紀イベリア半島の異端審問とアジアのイエズス会士」学習院女子大学, 2012 年 12 月 3 日.

(2) 招待講演「大航海時代と石見銀山」石見銀山世界遺産登録五周年記念フォーラム (於サンレディー大田) 2011 年 11 月 11 日

(3) 招待講演「カクレキリシタンと「マリア十五玄義図」」長崎の教会群とキリスト教関連遺産世界遺産フォーラム (於長崎歴史文化博物館) 2012 年 10 月 28 日

(4) *The Mendicant Orders and a Painting of the 15 Mysteries of the Rosary, Early Modern Japan in European Archives*, (於京都大学人文科学研究所) September 29, 2012.

(5) 招待講演「隠れキリシタンを画像に探る」U-TALK 東京大学情報学環, 2012 年 7 月 14 日

(6) 招待講演「世界貿易からみた近世日本—東~東南アジアの銀の委託・投資貿易—」日銀貨幣博物館セミナー (於日銀貨幣博物館), 2011 年 10 月 31 日

(7) 「17 世紀~18 世紀ポルトガル人のアユタヤ貿易: ナライ王からターイサ王の時代を中心に」海域アジア史研究会 (於大阪大学), 2011 年 10 月 30 日

(8) 「南蛮貿易のルートと移動商品」第 32 回日本貿易陶磁研究集会 (於大分県立芸術短期大学), 2011 年 9 月 24 日

(9) 招待講演「16 世紀から 17 世紀の海域アジアにおける貿易投資の変遷」国際シンポジウム: 海域アジアの港市国家 (於立教大学), 2011 年 5 月 21 日

(10) “Changes in Trade Investments in Maritime Asia from the 16th to 17th Centuries” 第 56 回国際東方学者会議 (於日本教育会館), 2011 年 5 月 20 日

(11) 招待講演「中華帝国とポルトガルのほごまにて—マカオ商人の系譜—」 映耶会東京支部例会 (於学士会館), 2011 年 2 月 12 日

(12) 「‘新しい世界史叙述’ という視点から前近代マカオ史を再考する」ユーラシア科商館比較研究会 (於東京大学), 2011 年 1 月 8 日。

(13) “Maritime Investment in East Asia at the Beginning of the Seventeenth Century”, *LIA-CASSH Workshop*, at University of Tokyo, September 24, 2010

(14) 招待講演「マカオ商人ロウレイロをめぐる世界—長崎・大浦外国人居留地の人々—」大洲市歴史ミーティング「坂本龍馬と国島六左衛門」(於大洲市役所), 2010 年 9 月 11 日

(15) 招待講演「ポルトガル領事ロウレイロがみた幕末日本」大阪日本ポルトガル協会 (於リーガロイヤルホテル中之島), 2010 年 6 月 11 日

(16) 招待講演「大航海時代の銀 (日本・新

大陸) 流通—海上貸付の視点から—」日本西洋史学会大会 (於別府大学), 2010年5月31日

(17) 招待講演 “The Commodity in the Nagasaki-Macau Trade of the Late 16th Century” , *The First International Congress on Macaology*, April 16, 2010, at Macao University

(18) 招待講演 “Credit Transaction in the Early 17th Century China Seas Trade” , *CNRS-University of Tokyo 5th International Workshop*, at EHESS-CNRS, Paris, December 17, 2009.

(19) “Foreign Captives in Guangzhou and Nagasaki” , *2nd International Congress “Canton and Nagasaki Compared* , November 29, 2009, at University of Tokyo.

(20) “Credit Transaction in the Early 17th Century China Seas Trade-focusing on silvers invested in trade with the Chinese by Japan, Macau and Manila” , *Lisbon International Workshop :Maritime Trade in East Asia from the 15th to 18th Centuries*, November 2, 2009, at Sociedade Historica da Independencia de Portugal.

(21) “Prehistory of the Commerce between Nagasaki and Macao: an analysis of the Portuguese settlement in Zhejiang in the 1540s” , *1st Congress of Asian Association of World Historians*, at Osaka University, 29, May, 2009.

〔図書〕 (計2件)

岡美穂子 (単著) 『商人と宣教師 南蛮貿易の世界』東京大学出版会, 2010年, 総頁382
羽田正総編集 (共著) 『海からみた歴史—シリーズ東アジア海域に漕ぎ出す』東京大学出版会, 2012年, 総頁289 (主に第二部部分執筆)

〔その他〕

第17回ロドリゲス通事賞 (ポルトガル外務省)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡 美穂子 (OKA MIHOKO)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号: 30361635